

宗 像

埋蔵文化財発掘調査概報

大井三倉遺跡

いけ うら たか だ
池浦高田遺跡

よし どめ きょう でん
吉留京田遺跡

宗像市文化財調査報告書

第 10 集

宗像市教育委員会

社会教育課

1 9 8 6

宗 像 市 教 育 委 員 会

宗 像

埋蔵文化財発掘調査概報

宗像市文化財調査報告書

第 10 集



1 9 8 6

宗 像 市 教 育 委 員 会

序 文

本書は、今年度中に発掘調査を実施した県営は場整備等に伴う発掘調査記録の成果を収めております。

本書が、広く文化財保護及び学術研究に貢献することを念願いたしますとともに、発掘調査全般にわたってご協力をいただいた多くの方々に心から感謝の意を表する次第であります。

昭和61年3月31日

宗像市教育委員会

教育長 竹原瑛

例 言

1. 本書は昭和60年度に国・県の補助を受けて実施した宗像市内の埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。
2. 発掘調査は圃場整備事業に伴って宗像市教育委員会が事前に実施した。
3. 本書使用の図は酒井仁夫、原俊一、瀧本正志、安部裕久、清家直子、徳永映子が作製、浄書した。
4. 本書使用の写真は酒井、原、瀧本、安部が撮影した。
5. 題字は城月かよ子が揮毫した。

本文目次

	本文頁
第Ⅰ章 調査の概要	1
第Ⅱ章 大井三倉遺跡	2
1. 立地	2
2. I区の遺構と遺物	2
3. II-A区の遺構と遺物	6
4. II-B区の遺構と遺物	6
第Ⅲ章 池浦高田遺跡	13
1. はじめに	13
2. 発掘調査の概要	13
3. まとめ	14
第Ⅳ章 吉留京田遺跡	17
1. はじめに	17
2. I区の調査	17
3. II区の調査	23
4. III区の調査	27
5. まとめ	27

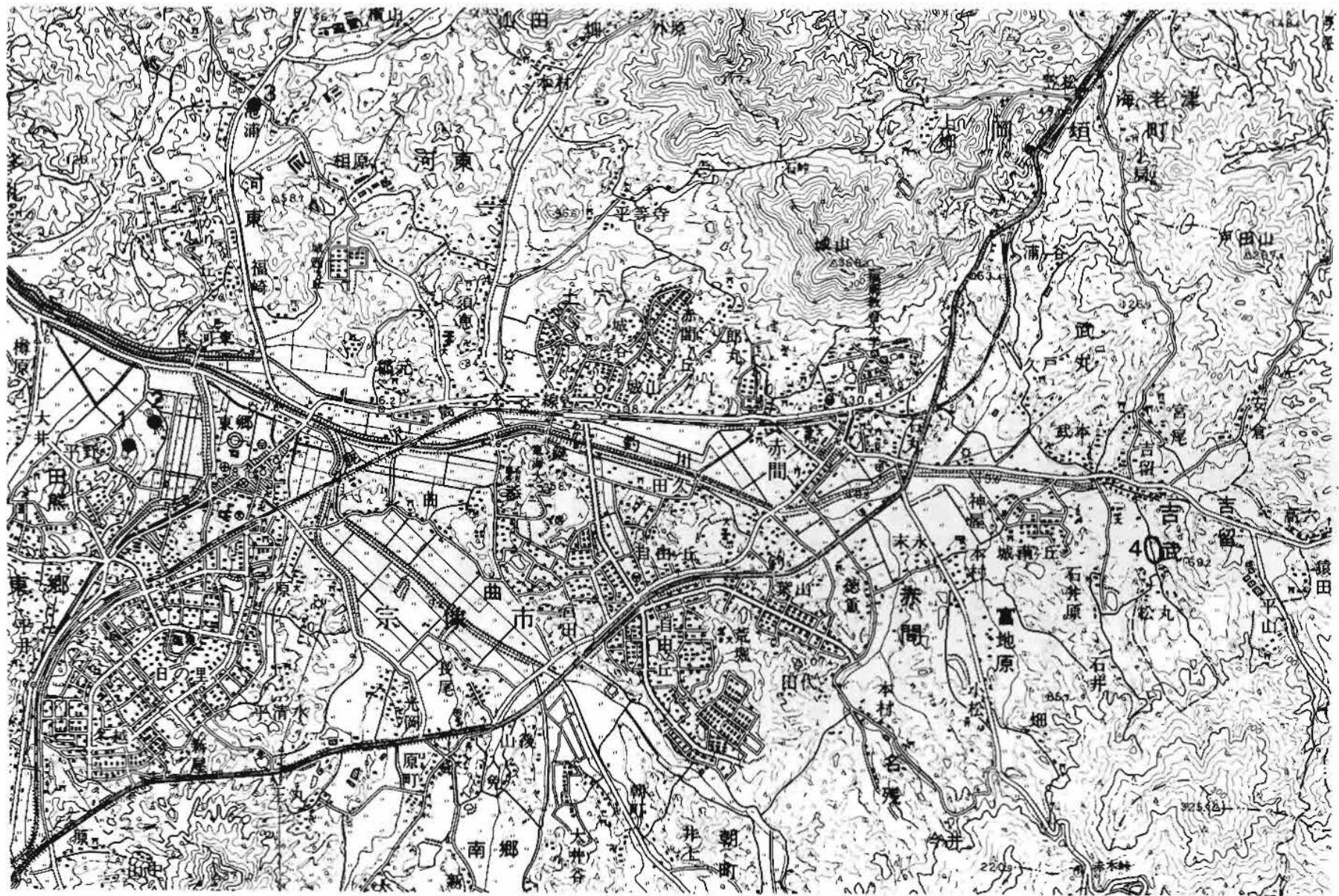
挿 図 目 次

第1図	発掘調査遺跡位置図 (1/50000)	卷頭
第2図	大井三倉遺跡全体地形測量図 (1/2000)	3~4
第3図	大井三倉遺跡I区地形測量図 (1/1000)	5
第4図	大井三倉遺跡I区遺構配置図 (1/200)	7~8
第5図	大井三倉遺跡II-A区地形測量図 (1/1000)	9
第6図	大井三倉遺跡II-A区遺構配置図 (1/200)	10
第7図	大井三倉遺跡II-B区地形測量図 (1/1000)	11
第8図	大井三倉遺跡II-B区V字溝実測図 (1/300)	12
第9図	池浦高田遺跡位置図 (1/2000)	13
第10図	池浦高田遺跡遺構配置図 (1/200)	15~16
第11図	吉留京田遺跡位置図 (1/2000)	18
第12図	吉留京田遺跡I区遺構配置図 (1/200)	21~22
第13図	吉留京田遺跡II区遺構配置図 (1/200)	25~26
第14図	吉留京田遺跡III区遺構配置図 (1/200)	29~30

図 版 目 次

図版1	大井三倉遺跡	1. I区調査前（東から） 2. I区調査前（南東から） 3. I区調査後（南東から）
図版2	大井三倉遺跡	1. II区調査前（南から） 2. II-A区貯蔵穴
図版3	大井三倉遺跡	1. 住居跡群全景 2. 2号住居跡 3. 7号住居跡
図版4	大井三倉遺跡	1. II-B区V字溝北半（南から） 2. II-B区V字溝西半（南から）

- 図版5 池浦高田遺跡 1. 遺跡全景（北から）
2. 1号住居跡（東から）
3. 6号住居跡（南から）
- 図版6 吉留京田遺跡 1. I区東側住居群（北から）
2. I区西側住居群（南から）
- 図版7 吉留京田遺跡 1. 4号住居跡（北から）
2. 4～7号住居跡（南から）
3. 8号住居跡（南から）
4. 10～12号住居跡（西から）
5. 13号住居跡（西から）
6. 17号住居跡（西から）
- 図版8 吉留京田遺跡 1. II区全景（南から）
2. 1号住居跡（南から）
3. 2・3号住居跡（北から）
- 図版9 吉留京田遺跡 1. 4～6号住居跡（東から）
2. 9号住居跡（南から）
3. 10・11号住居跡（南から）
4. 12～15号住居跡（南から）
5. 16号住居跡（東から）
6. 17号住居跡（南から）
- 図版10 吉留京田遺跡 1. III区全景（南から）
2. 1号住居跡（西から）
3. 3号住居跡（東から）
- 図版11 吉留京田遺跡 1. 4号住居跡（西から）
2. 5～7号住居跡（西から）
3. 8号住居跡（西から）
4. 8号竪穴（南から）
5. 1号住居跡遺物出土状況
6. 1号住居跡 玉出土状況



第1図 発掘調査遺跡位置図 (1/50000)

1. 大井三倉遺跡Ⅰ区 3. 池浦高田遺跡
 2. 大井三倉遺跡Ⅱ区 4. 吉留京田遺跡

第Ⅰ章 調査の概要

本年度の圃場整備に伴う発掘調査は大字大井字三倉、大字池浦字高田、大字吉留字京田において実施した。各々、大井三倉遺跡、池浦高田遺跡、吉留京田遺跡と命名した。調査面積及び調査期間は下記のとおりである。

遺跡名	調査面積	調査期間
大井三倉遺跡	6200m ²	4月24日～8月2日、10月1日～11月30日
池浦高田遺跡	1500m ²	6月18日～7月23日
吉留京田遺跡	5100m ²	7月19日～9月2日

第1表 1985年度発掘調査一覧表

発掘調査の組織は次のとおりである。

総括	宗像市教育委員会	教育長	竹原瑛
		教育部長	白木国明
		社会教育課長	乙藤重松
		社会教育係長	井上弘
庶務・会計		社会教育主事	安部芳次
		主事	城月かよ子
発掘調査		主査	酒井仁夫
		主事	原俊一
		嘱託	瀧本正志
		嘱託	安部裕久

発掘調査に際しては地元の方をはじめ福岡農林事務所、宗像市農地整備課、吉武土地改良区の方々及び山口大学・福岡大学・福岡教育大学に協力いただいた。

第Ⅱ章 大井三倉遺跡

1. 立地

田熊の丘陵は釣川に向って北に派出し、先端は東西二支の中位段丘となっている。西側段丘は標高27mを最高所とし、北北西に伸びる尾根の先端頂部は狭い馬背状になっている。この尾根先端頂部の標高15~16m附近に9基の古墳が築造されている。西側段丘から幅約50mの狹少な谷部を隔てて東側段丘が伸びている。東側段丘は北側に伸びるほど扇形に幅を広げ、かつ標高も高まっている。当段丘西斜面の北端で弥生時代住居跡及び貯蔵穴と古墳時代住居跡が検出され、さらに南側に小谷を隔てて弥生時代のV字溝が発見された。

なお、東西両段丘の調査地はいづれも畠作に際しての開墾のために甚しく削平されている。特に東側段丘西斜面では大規模な開墾を受けたようで、由来はさらに多くの住居跡や貯蔵穴等の遺構があったものと思われる。

東側段丘をI区、西側段丘をII区と呼ぶ。

2. I区の遺構と遺物

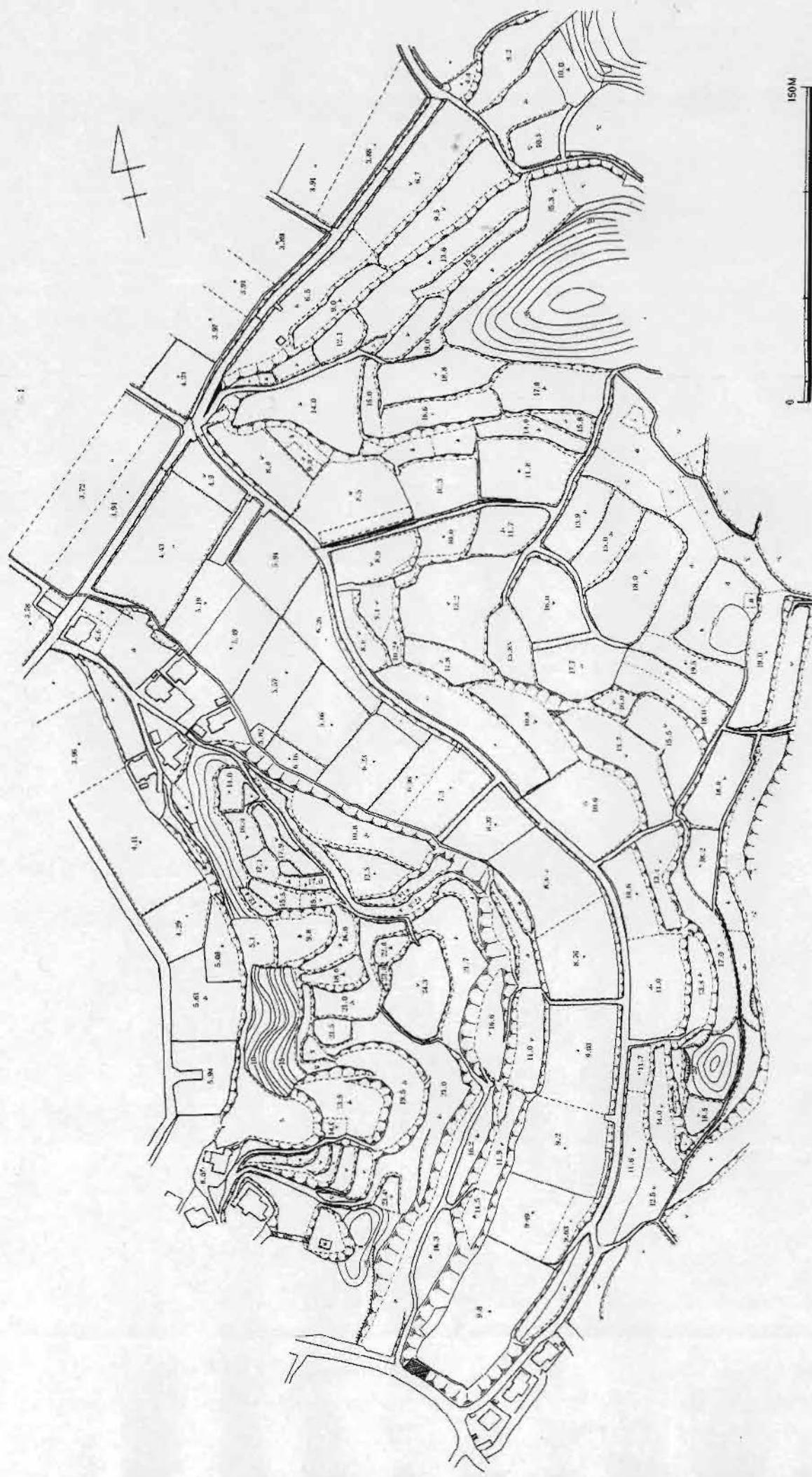
古墳9基、石棺3基、土塚墓4基（うち1基は石蓋）、土塚4口、中世墓1が検出された。

古墳は全て単室の横穴式石室を内部主体とする円墳である。石室内からは武器・馬具・工具・装身具類が出土した。土師器・須恵器で石室内部から出土したものはなく、全て墓道か周溝内埋土中、あるいは墳丘下の出土品である。

各古墳及び横穴・土塚からの出土遺物は次のとおりである。

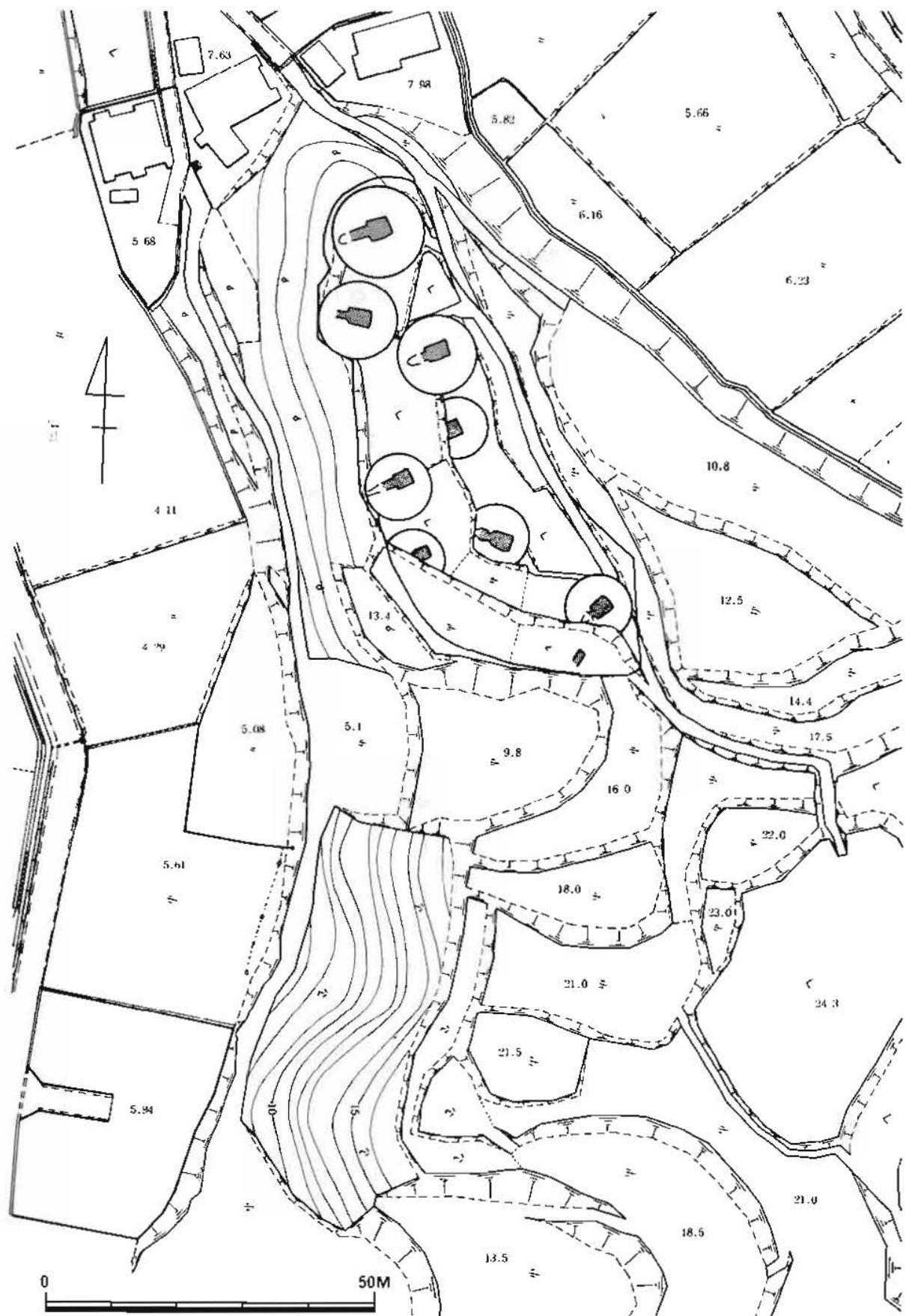
第2表 各古墳出土遺物一覧表

	武器			馬具			工具			装身具									土師器		須恵器									
	刀	鐵	鎧	鍔	金	辻	ハ	蛇	行	斧	鋸	耳	勾	囊	切	小	土	管	臼	変	空	高	高	高	椀	蓋	壺	甕	提	平
	刀	鐵	鎧	鍔	金	辻	ハ	蛇	行	斧	鋸	耳	勾	囊	切	小	土	管	臼	変	空	高	高	高	椀	蓋	壺	甕	提	平
1号	1	9													6	8	1						2				1			
2号	1	13			1					1	3	2	1	1	32	108			2			1	1	1	1	1	1	1	1	
3号	1	4				4				1	1		1	2	29	21	4	6	4							1		1		
4号	3		1	2	1		3	2			1		1	7	6			1	1	3	2	10	1	1	3	1	4	5	6	
5号	2	40				1		1	1			1		33	36	3			1	2	4	1			1	4	2	1		
6号	2	3												3												1				
7号										1										2	5	2		3	2	1				
8号	1	4								1					10					1	1			1		2				
9号																														



第2図 大井三倉遺跡全体地形測量図（1／2000）

大井三倉遺跡



第3図 大井三倉遺跡 I 区地形測量図 (1/1000)

石室構造や出土遺物からみて、これらの古墳は6世紀後半～7世紀初頭にかけて築造・使用されたものであり、墳丘下から検出された石棺・土塙墓・横穴は当然その時期を溯るものである。

3号墳の南側墳丘を切る方形土塙が墓1口発見された。4隅及び床面中央に柱穴が掘られており、床面から龍泉窯青磁碗1ヶが出土した。

なお、遺構に伴うものではないが、弥生時代前期の土器と石器が若干発見された。

3. II-A区の遺構と遺物

II区の北端をII-A区とする

弥生時代の貯蔵穴3・円形住居跡2・古墳時代住居跡9が検出されたがいづれも斜面縁辺部のみであり、尾根中央部は開墾のため甚しく削平され、まったく遺構は発見されなかった。

貯蔵穴はいづれも円形プランで、断面は袋状をなすが、壁高は5～10cm程度しか残っていない。僅かに出土した土器は中期半前半のものである。弥生時代住居跡2軒は丘陵北斜面にかかるて壁と床の一部を残すのみであり、柱並びについては不明である。

古墳時代住居跡は方形プランで、周溝や排水溝・カマドを持ったものもある。柱並びは第10号住居跡のみが明瞭な4本柱であるが、他は不明確である。9号住居跡床面から埴3個体がまとまって出土したが、他は貧弱である。3号住居跡覆土中からは土師器がまとまって出土した。椀・甕・瓶・高杯等を含んでいる。また床面上に壁厚2cm前後と厚手で、焼成の非常に悪い土塊が集中して出土した。これは片面に熱を受けており、作り付けのカマドではないかと思われる。

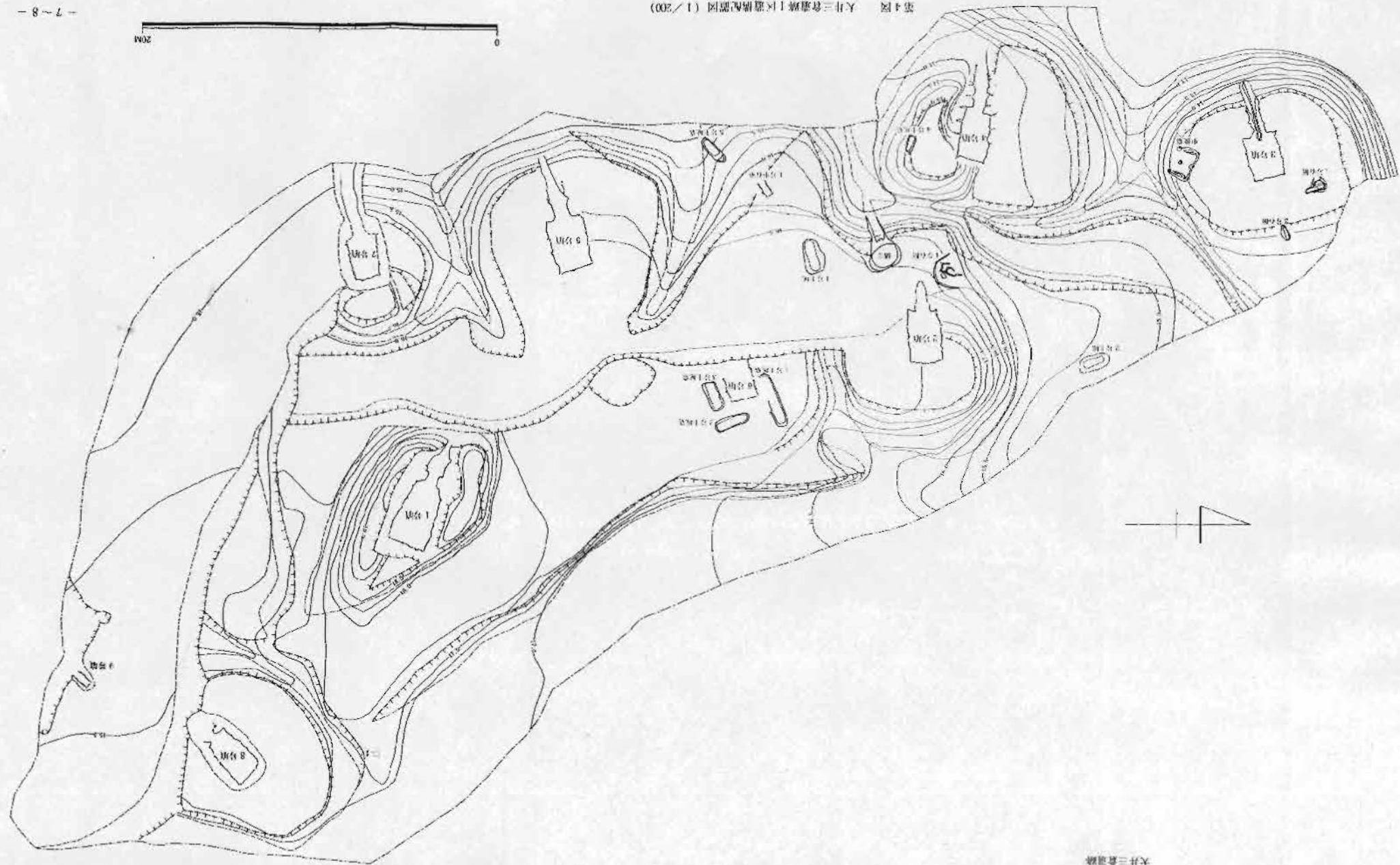
各住居跡出土の土器は5世紀後半に属するものである。

4. II-B区の遺構と遺物

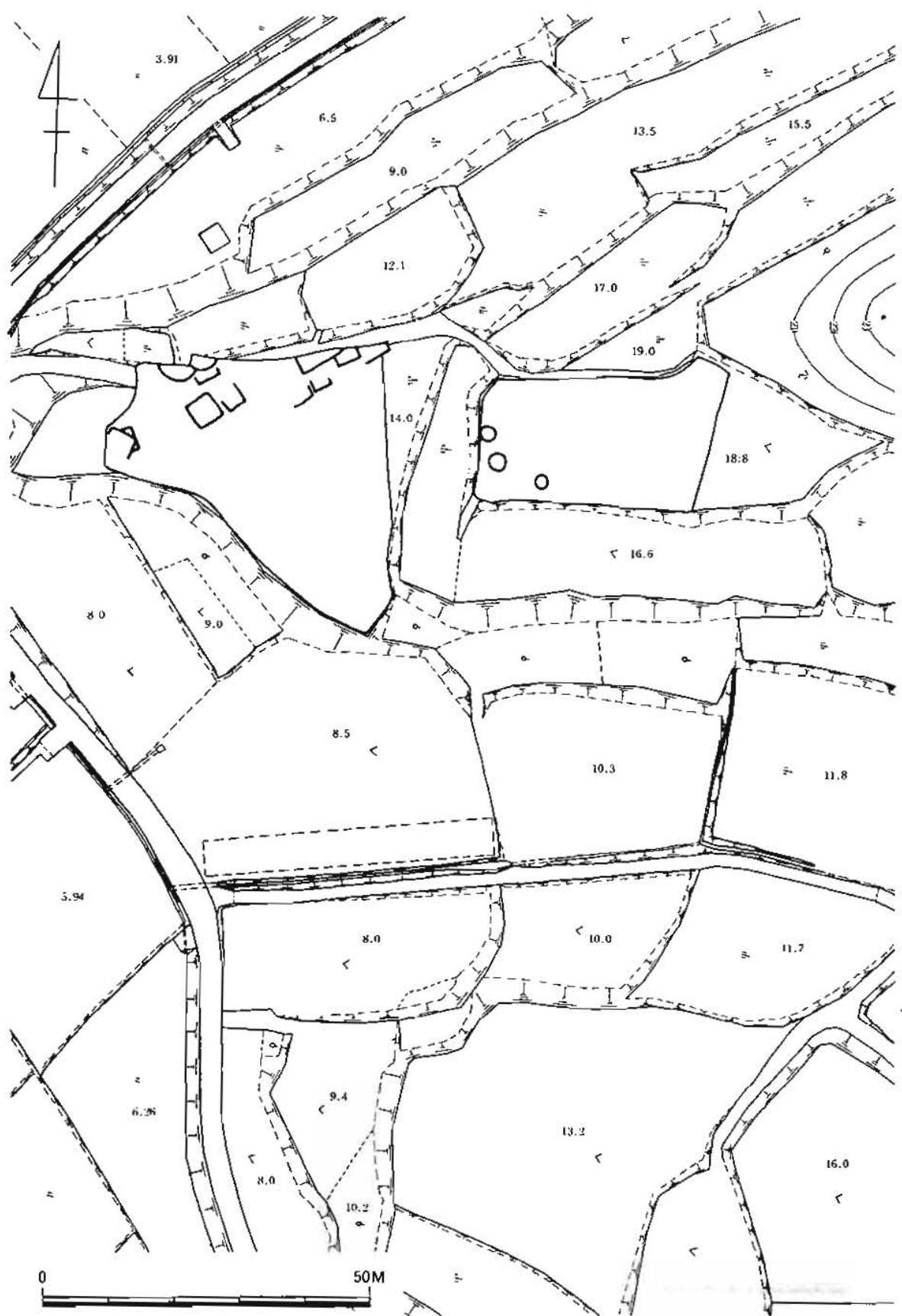
II区の中央部をII-B区とする。標高約22.5mの尾根瘤部を取りまいて東南側谷へと抜け切るV字溝が検出された。但し、東半は造成予定地外になるため、調査できなかった。調査した西北辺と西南辺は隅が連続せず、陸橋状になっている。最大上幅5.0m、底幅10cm、最深1.9mを測る。土層断面を観察すると、このV字溝は一度自然堆積によって埋まった後、さらに深く掘削しなおした事が理解される。

V字溝内堆積土は下層が砂礫による水性堆積土、中層が固い粘質土、上層が炭化物を含む黒褐色土となっており、出土遺物は上層に多い。埋土中からは完形品を含む多量の土器と共に石器・土製品・獸骨角が出土した。土器は前期中葉（板付II-A式）に属するもので、福岡平野

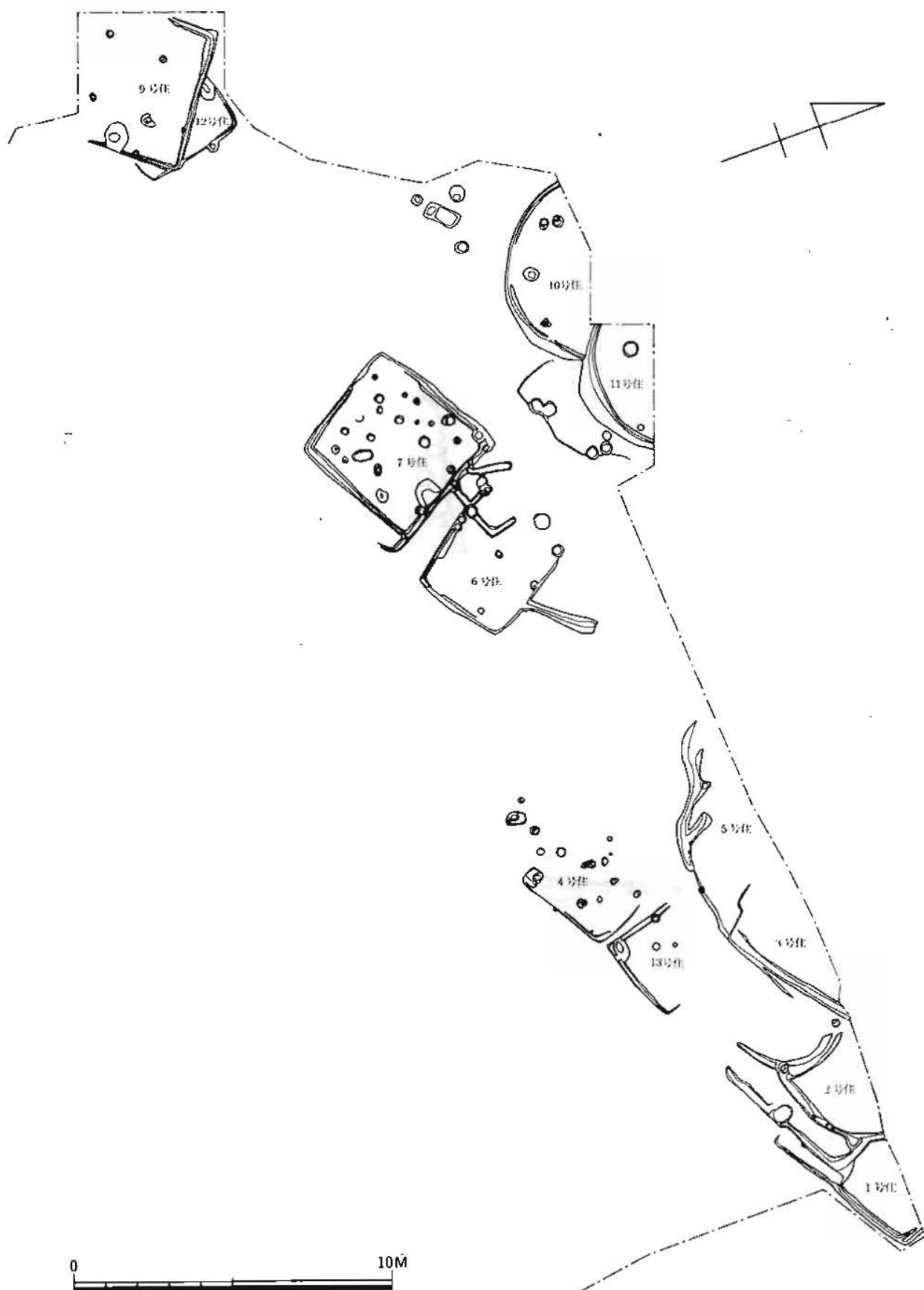
卷下圖 三日三書題外論語解說圖 (1/200)



大井三倉遺跡



第5図 大井三倉遺跡II-A区地形測量図(1/1000)

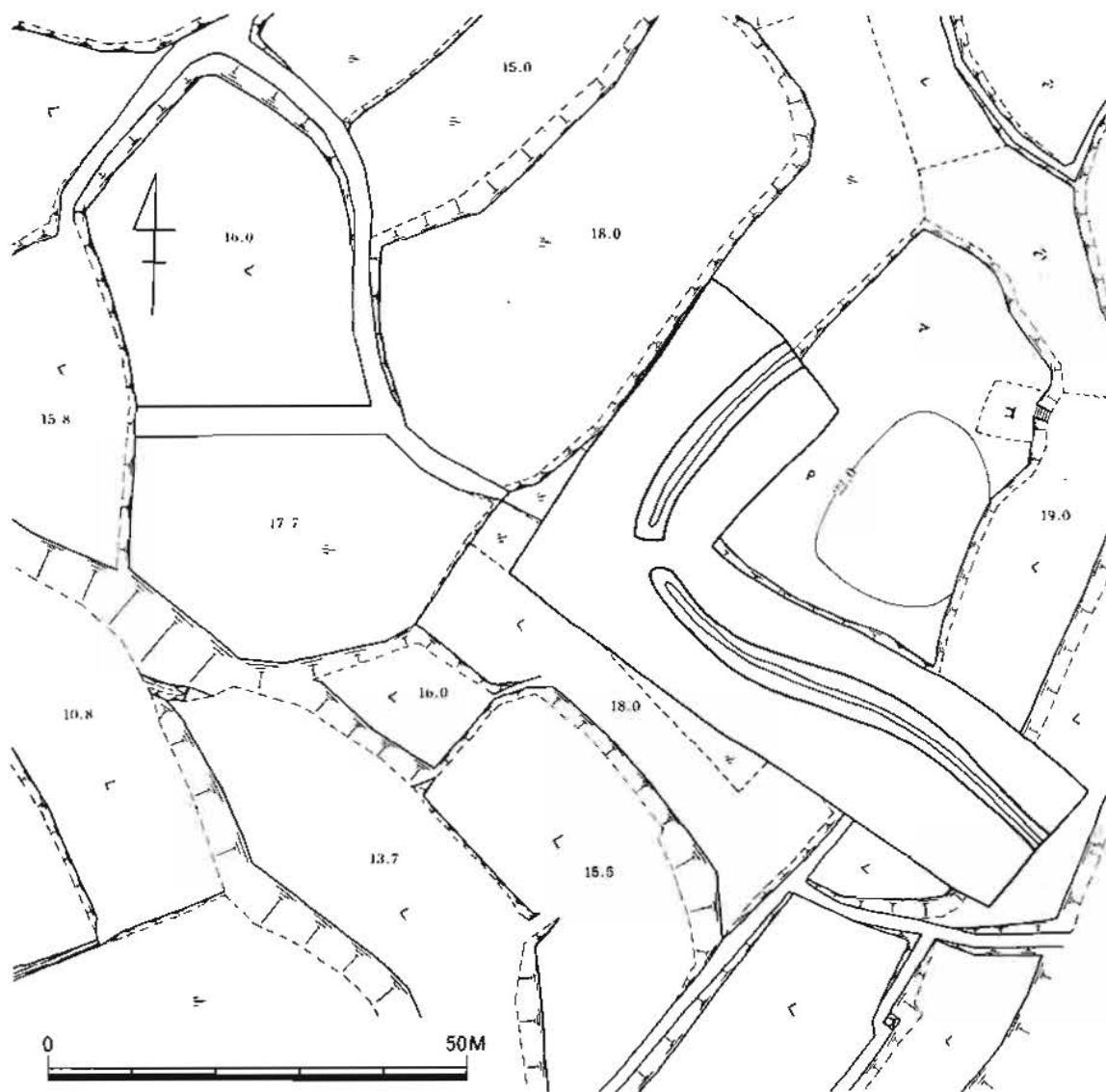


第6図 大井三倉遺跡II-A区遺構配置図
(1/200)

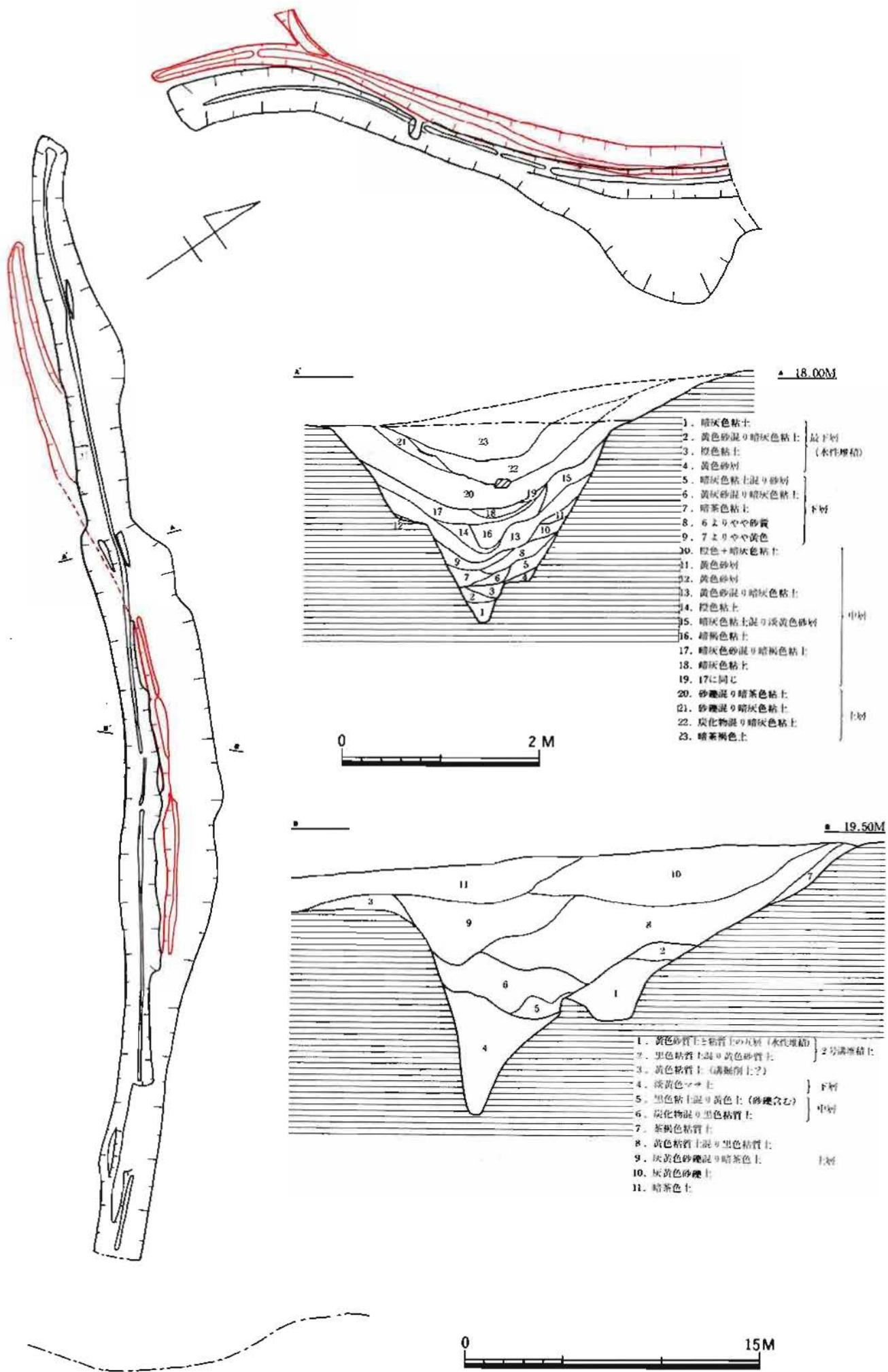
大井三倉遺跡

の同時期のものとは異なり、津屋崎町今川遺跡・中間市垣生遺跡出土品と共に点が多い。

なお、V字溝環内の台地瘤部では何らの遺構も検出されなかった。台地自体それほど削平されたとは思われず、貯蔵穴であれば底面近くが少なくとも残されていたろうと思われる地形であり、何を守ろうとした溝か、理解に苦しむところである。



第7図 大井三倉遺跡II-B区地形測量図（1/1000）



第8図 大井三倉遺跡II-B区V字溝実測図 (1/300)

第三章 池浦高田遺跡

1. はじめに

当遺跡は、市営小規模排水対策特別事業（池浦地区11.7ha）に伴う緊急発掘調査により検出された遺跡で、昭和60年6月18日から7月23日までの期間調査を実施した。

遺跡は、宗像市の北西部玄海町と境を接する池浦地区に所在しており、標高499mを最高所とする孔大寺山から南西に派生する丘陵の南側緩斜面に位置している。

遺跡の現地形は、水田及び畑地でかなりの削平を受けており、地形の変化が著しい。

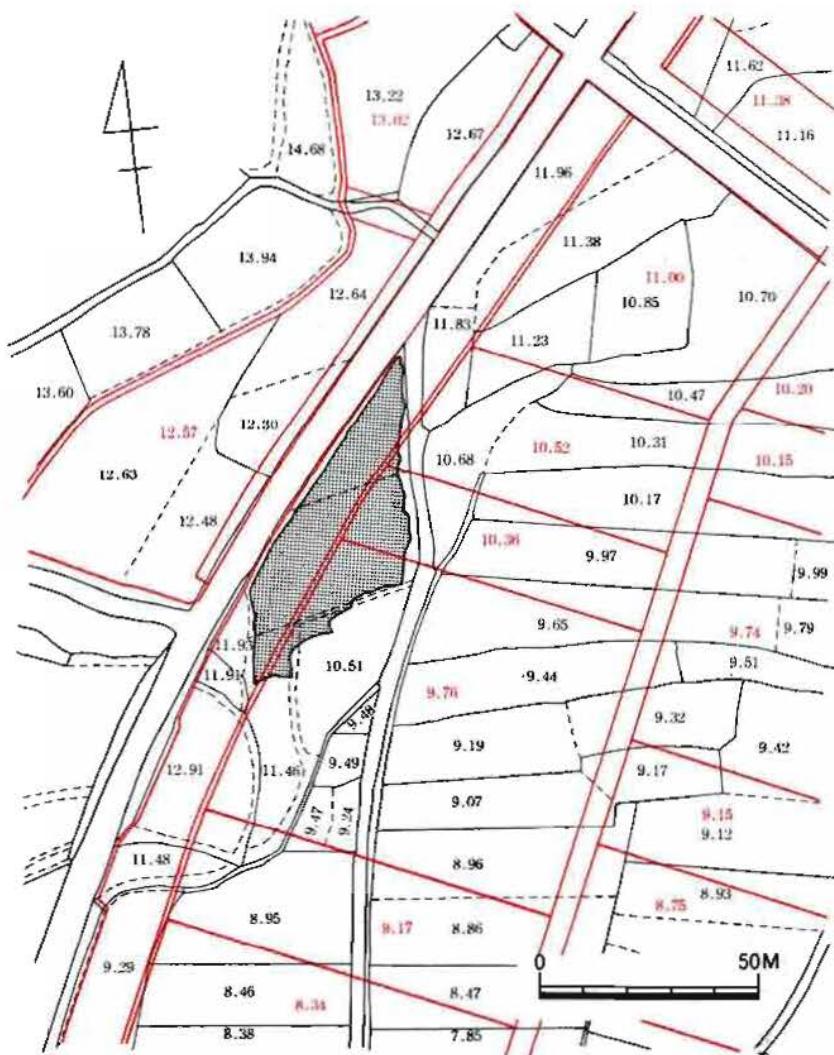
2. 発掘調査の概要

調査は、11.7haのうち土地の切り盛り調整で削土される部分について実施した。まず遺跡の分布及び遺存状況を把握するため、重機による試掘

調査を実施した。遺構の遺存状況は、極めて悪く柱穴の底をかすかに遺存するものがほとんどであった。その中でいく分遺存状況のよい1500m²について面的調査を実施した。

遺構は、最大長約60m、最大幅約30mの発掘区域に住居跡15棟、竪穴7基、溝3本が分布しており、発掘区域の南側に密な分布を示す。検出遺構面の標高は、約12m～10mの間で北から南に緩やかに下っている。標高10.5m～11.0mの間に密な分布を示す。

遺 槩



第9図 池浦高田遺跡位置図 (1/2000)

住居跡（第3表） 当遺跡で検出された住居跡は15棟であった。大半が周壁溝を有している。唯一10号住居跡のみ周壁溝をもたない。規模的には他と同一規模である。住居跡壁面付近に炉を有するものは、1・2・6・8号、屋外排水路を有するものは、2・4・6・8・14号住居跡である。

これらの事から住居規模にとらわれない分類をすると、2・6・8号住居跡のグループ（4本柱で炉を持ち周壁溝を有し屋外排水溝を付設する。）、4・14号住居跡のグループ（4本柱で炉を持たず周壁溝を有し屋外排水溝を付設する。）、3・5・7・9・11・12・13・15号住居跡のグループ（4本柱で炉を持たず周壁溝を有し屋外排水溝を付設していない。）、1号住居跡のように4本柱で炉を持ち周壁溝を有するが屋外排水溝を付設していないもの。10号住居跡のように4本柱で炉も周壁溝も屋外排水溝も有さないものの5つに分類できる。

竪穴（第3表） 当遺跡では7基の竪穴を検出している。1～4号竪穴は長方形を呈するもので、1辺2m程の規模である。5～7号竪穴は円形のもので、径1m程のものである。

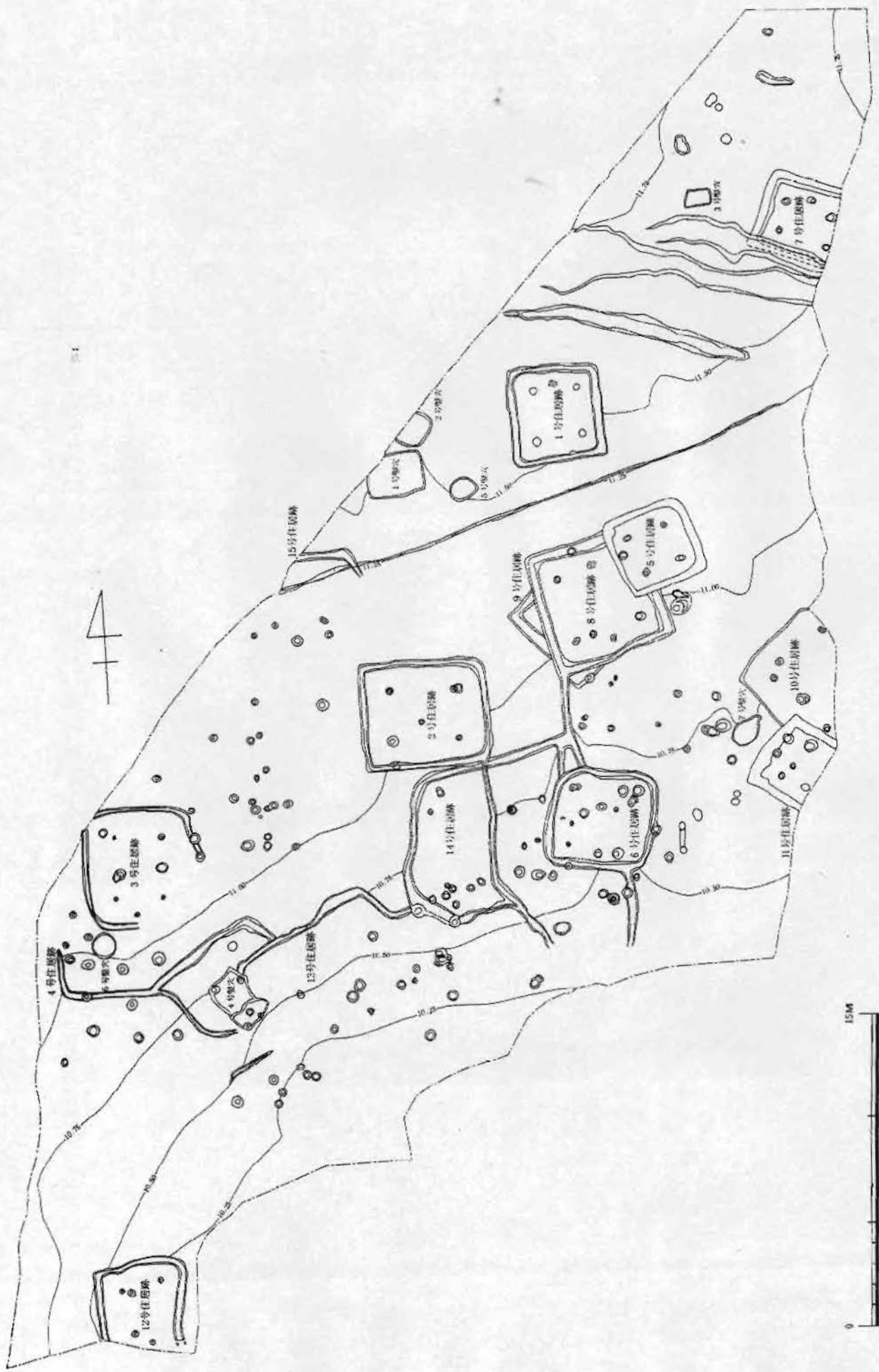
溝（第3表） 当遺跡からは3本の溝が検出されている。1号溝は幅1.2m長さ12m程のものである。2号・3号溝は幅2m程のものである。

3. まとめ

池浦高田遺跡は、部分的な調査ではあったが15棟の住居跡及び7基の竪穴、3本の溝状遺構を検出することができた。住居跡については7グループに分けることができた。出土遺物については次回にまわすが、各遺構とも6C代を中心としたものであった。

第3表 池浦高田遺跡遺構一覧表

遺構番号	規 模 (短辺×長辺m)	床面積 (m ²)	床面標高 (m)	主柱穴	炉	周壁溝	屋内排水溝	屋外排水溝	出土遺物	備 考
1号住居跡	4.4×4.6	20.24	11.6	4	北壁	全周	なし	なし		
2号住居跡	5.2×6.0	31.2	10.8	4	北壁	全周	なし	南東スミ		
3号住居跡	5.2×5.3	27.56	11.2	4	なし	全周	なし	なし		
4号住居跡	4.8×2.5α	12α	11.1	2(4)	なし	全周	なし	南東スミ		
5号住居跡	3.9×4.0	15.6	11.1	4	なし	全周	なし	なし		
6号住居跡	4.9×5.3	25.97	10.5	4	西壁	全周	なし	南東スミ		
7号住居跡	3.7α×3.9	14.43α	11.4	4	なし	全周	なし	なし		
8号住居跡	5.8×6.0	34.8	11.0	4	北壁	全周	なし	南西スミ		
9号住居跡	1.7α×4.9	8.33α	11.1	?	なし	全周	なし	なし		
10号住居跡	3.2α×4.8	15.36α	10.6	3(4)	なし	なし	なし	なし		
11号住居跡	2.7α×3.9	10.53α	10.6	3(4)	なし	全周	なし	なし		
12号住居跡	4.4×4.2α	18.48α	10.3	3(4)	なし	全周	なし	なし		
13号住居跡	6.2α×6.2	—	10.9	4	なし	全周	なし	なし		
14号住居跡	7.4×7.5	—	10.7	4	なし	全周	なし	南西スミ		
15号住居跡	2.8α×1.5α	—	11.2	?	なし	全周	なし	なし		
1号竪穴	2.2×2.7	—	11.4							
2号竪穴	1.7×1.1α	—	11.3							
3号竪穴	0.7×1.2	—	11.5							
4号竪穴	1.9×2.7	—	10.6							
5号竪穴	1.1×1.3	—	11.5							
6号竪穴	1.2×1.2	—	10.6							
7号竪穴	1.1×1.7	—	10.7							
1号溝	1.2×12	—								
2号溝	2.0×13α	—								
3号溝	1.8×8.5α	—								



第10圖 池浦高田遺跡遺構配置圖 (1 / 200)

第IV章 吉留京田遺跡

1. はじめに

当遺跡は、吉武地区県営圃場整備に伴い緊急発掘調査された。昭和60年7月19日から9月2日まで調査を実施した。遺跡は、宗像市の東部の吉武地区に所在しており、標高325.7mを最高所とする新立山から北に派生する丘陵に位置している。遺跡の現地形は、南北に細長く段丘を形成しており畑地となっている。

発掘調査は、25haのうち、切り盛り調整で削土される部分について実施した。まず遺跡の範囲及び遺存状況を把握するため、重機による試掘調査を実施し、遺構の遺存状況のよいと思われる地点（南からⅠ区1700m²・Ⅱ区1400m²・Ⅲ区2000m²）について面的調査を実施した。

2. Ⅰ区の調査

遺構

遺構は、44m×40mの発掘区域に住居跡21棟、竪穴基、溝本、甕棺墓3基が分布しており、発掘区域の東・西に密な分布を示す。検出遺構面の標高は、約36m～35mの間で南東から北西に緩やかに下っている。

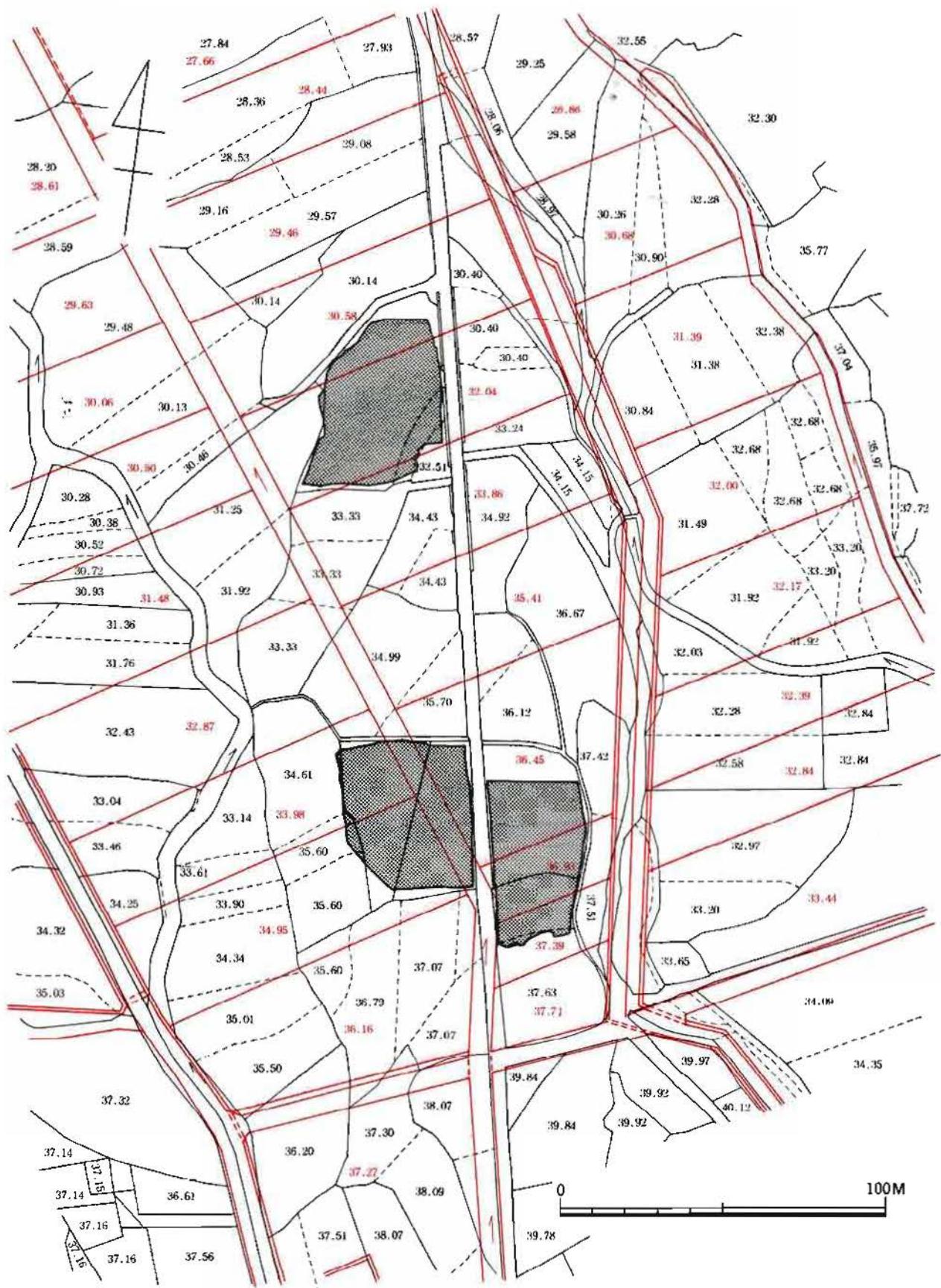
標高35.75mの等高線と標高35.25mの等高線上には、住居跡群が等高線に平行配列されたように占地しており、この住居跡間の空地に竪穴が点在している。溝は発掘区域の北西隅にその一部を検出している。甕棺墓は、発掘区域の北西部18号住居跡の南側に2基、その東部8m程に1基が検出されている。

住居跡（第4表） 当区検出の住居跡群は21棟でⅡ区検出の住居跡群と連続して群構成されている。当区域内での群構成は、区域内東部を占めてⅡ区へと続く1群と区域内北西部を占める1群から構成されている。

東部を占める1群は、標高35.75mの等高線上に占地されているもので、2～13号及び21号住居跡の13棟とⅡ区の13棟から成る。これを細分すると4つのグループに分けることができる。

第1のグループは、7・9・21号住居跡とⅡ区の1棟のように2本柱を主穴柱とするグループで住居跡の規模は、一辺3m内外、炉や屋内排水溝、屋外排水溝を付設していない。唯一21号住居跡については、壁の周囲に巡らす幅30cm程の溝（周壁溝）の一部を検出した。

第2のグループは、2・3・8・13号住居跡とⅡ区の7棟のように1辺が4m内外で4本柱を主柱穴とするグループで、各住居跡とも炉を有している。3号住居跡は床面西壁近くの中程に50×50cm程の焼土がみられる。8号住居跡では床面北壁近くの中程に50×50cm程の焼土がみ



第11図 吉留京田遺跡位置図（1/2000）

られる。13号住居跡では床面北壁近くの中程に50×30cm程の焼土がみられる。いづれの住居跡も方位の違いを除けば一辺の中程に炉を設営している。又当グループでは各住居跡とも幅40cm内外の周壁溝を有している。しかし、屋内・屋外の排水溝については、8号住居跡の北東部隅から付設されている屋外排水溝を除いては付設されていない。

第3のグループは、4・5・6・12号住居跡とII区の4棟のように1辺が5m内外で4本柱を主柱穴とするグループで、住居跡付設の炉、屋内、屋外排水溝等の有り方は、第2グループと同様である。

第4のグループは、10号住居跡のように4本柱を主柱穴として一辺が7mに近いような大きさをもつもので、周壁溝をもっている。

北西部を占める1群は、標高35.25mの等高線上に占地されているもので、14～20号及び1号住居跡から成る。これを発掘区域内東部を占める1群を細分したものと同様の方法で細分すると、第1グループは、14号住居跡がこれにあたる。しかし当14号住居跡は周壁溝を有しており、東部を占める1群で例外的21号住居跡と類似している。第2グループは、1・17・19号住居跡がこれにあたる。しかし、当グループでは東部を占める1群でみられた炉を有している住居跡はみられない。周壁溝においては同様である。第3のグループは、16・18号住居跡がこれにあたる。16号住居跡は東部占地の1群5号住居跡と類似しており、18号住居跡は12号住居跡と類似している。

当群では東部占地の1群にみられる第4グループにあたる住居跡は検出されていない。発掘区北西隅の溝状遺構が発掘区域外で住居跡の周壁溝になればこれが当群での第4グループにあたるのであるが明確には言いきれない。

東部占地の1群と北西部占地の1群を比較してみると第4グループを除外したすべてのグループで類似住居跡が確認された。よってこの細分は当区全体の細分としても適用できるものと思われる。第1グループとそれ以下のグループでは主柱穴が2本と4本というような住居建築で基本的な構造上の違いがみられる。又第2～第4グループでは、住居規模に違いがみられる。前者の違いは住居建築技術から考えて時期差を示すもので、後者は居住空間の意味から人口の増減に関する差を示すものと思われる。

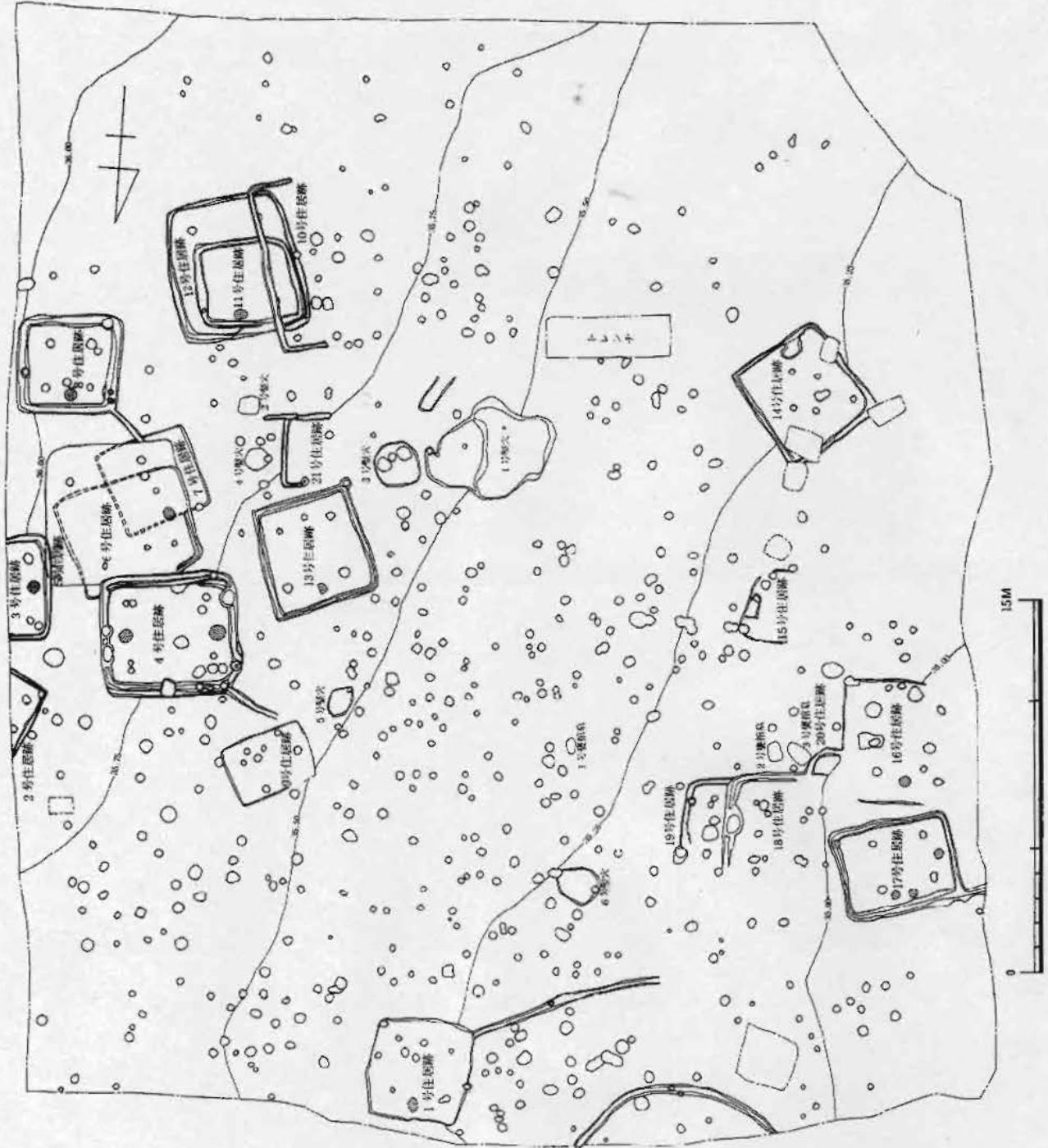
竪穴（第4表） 当区検出の竪穴は7基検出されている。1号竪穴は不定形のもので底面には火を受けた痕跡がみられ、甌^{さかさ}が逆に置いてあった。

溝（第4表） 当区北西部隅で検出している。幅40cm程のもので何らかの排水施設として存在したものと思われる。

甕棺墓（第4表） 当区検出の甕棺墓は3基である。1号甕棺墓は短辺0.65m×長辺1.35mの楕円形壇に甕を組み合せた合口のものである。下甕内中央程2ヶ所よりガラス製小玉及び碧玉製管玉を出土している。いづれの甕棺墓も弥生時代後期に属するものと思われる。

第4表 I区遺構一覧表

遺構番号	規 模 (短辺×長辺m)	床面積 (m ²)	床面標高 (m)	主柱穴	炉	周壁溝	屋内排水溝	屋外排水溝	出土遺物	備 考
1号住居跡	3.9×4.1	15.99	35.22	4	中央北側	なし	なし	南東隅		
2号住居跡	3.0α×1.7α	5.1α	35.82	? 4	?	ある	なし	なし		
3号住居跡	4.1×1.7α	6.97α	35.82	? 4	東カベ中央	ある	なし	なし		
4号住居跡	5.0×4.5	27	35.62	4	中央東より 中央西より	全周	なし	東北隅から		建て替え有り
5号住居跡	5.0×5.6	28	不明	3(4)	?	なし	なし	なし		3.4号住居跡 に切られる
6号住居跡	4.2×5.2	21.84	不明	3(4)	東壁	ある	なし	なし		5号住居跡に 切られる
7号住居跡	3.4×3.6	12.24	不明	1(2)	?	なし	なし	なし		6号住居跡に 切られる
8号住居跡	4.0×4.1	16.4	35.98	4	北壁	全周	なし	北東隅		5号住居跡に 切られる
9号住居跡	2.5×3.4	8.5	35.50	2	なし	なし	なし	なし		
10号住居跡	1.8α×6.8α	12.24α	35.92	? 4	?	全周	なし	なし		
11号住居跡	3.8×3.3	12.54	35.96	?	北壁中央	全周	なし	なし		12号住居跡に 切られる
12号住居跡	4.8×5.6	26.88	35.98	4	?	全周	なし	なし		10号住居跡に 切られる
13号住居跡	4.3×4.5	19.35	35.55	4	北壁	全周	なし	なし		
14号住居跡	4.1×4.6	18.86	35.20	2	?	全周	なし	なし		
15号住居跡	3.1×2.0α	6.2α		?	?	なし	なし	なし		
16号住居跡	3.4α×5.0	17.00	34.94	4	?	なし	なし			
17号住居跡	3.9×4.6	17.94	34.90	4	?	全周	なし	西北隅から		
18号住居跡	3.7α×3.0α	11.1α	35.08	4	?	ある	なし	なし		
19号住居跡	1.6α×2.7α	4.32α	35.20	1(4)	?	ある	なし	なし		
20号住居跡	0.8α×1.0α	0.8α	35.18	?	?	ある	なし	なし		
21号住居跡	計測不可			?	?	ある	なし	南東隅		
4号住跡建替	5.4×5.0	—	—	4	ある	なし	なし	あり		
1号甕棺墓	1.35×0.65								ガラス玉1 ヘキサ製玉1	
2号甕棺墓	1.60×1.15									
3号甕棺墓	2.10×1.30									



第12図 吉留真田遺跡 1区遺構配置図 (1/200)

3. II区の調査

遺構

当区はI区の東側、4m道路を挟んで位置している。43m×34mの発掘区域内に住居跡23棟堅穴14基を検出した。

遺構面の標高は、約37m～36mの間で南東から北西に向って緩やかに下っている。標高36.75mの等高線上と標高36.25mの等高線上には、住居跡群が等高線に平行配列されたように占地しており、この住居跡間の空地に堅穴が点在している。

住居跡（第5表） 当区検出の住居跡群は23棟でI区検出の東部占地住居跡群と連続して群構成されている。当区域内での群構成は、区域東南部を占める1群と区域西部を占めてI区東部占地住居跡群へと続く1群から構成されている。

南東部を占める1群は、標高36.75mの等高線上に占地されているもので、1～8号及び22・23号住居跡の10棟から成る。これをI区で細分したものと同様の方法で細分すると、第1グループは、1号住居跡がこれにあたる。当住居跡はI区のものと異なり、4.3×5.3mと大きく北壁側に溝をもつ。第2グループは、3・4・5・7・8号住居跡がこれにあたる。しかしI区とは異なり全ての住居跡に炉跡はみられない。各住居跡に周壁溝を有している様はI区と類似している。当区7号住居跡は北東隅から屋外排水溝が付設されている。これはI区8号住居跡に類似している。第3グループは、2・6号住居跡がこれにあたる。2・6号住居跡とともに炉跡を持たず、周壁溝を有している。これはI区12号住居跡に類似している。第4グループは、当群では検出されていない。

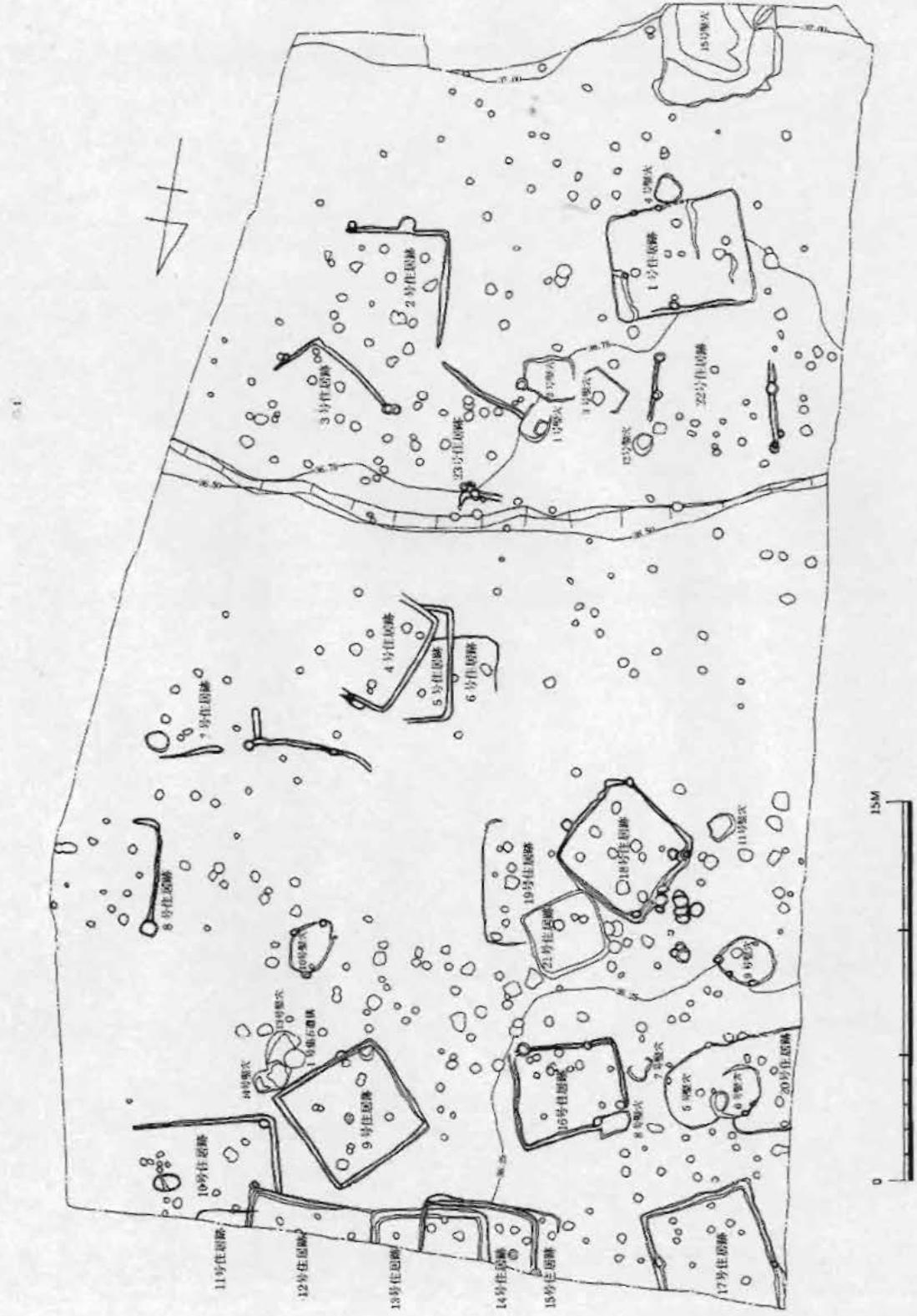
西部を占めI区の東部占地住居跡群と続く1群は、36.25mの等高線上に占地されているもので、9～21号住居跡の13棟とI区東部占地住居跡群の13棟から構成されている。第1グループは、21号住居跡がこれにあてはまる。一辺が3m内外で、炉や屋内排水溝、屋外排水溝を付設していない。柱穴が住居床面南側に3本確認されているが南西側2本は主柱穴ではなく、一番東側のものが主柱穴と思われる。よって2本柱を主柱穴とするこのグループに入れた。第2グループは、9・13・14・16・17・18・20号住居跡がこれにあたる。この内で20号住居跡はI区検出のものと異なり炉や屋内、屋外排水溝等を付設していない。第3グループは、10・12・15・19号住居跡がこれにあたる。この内15号住居跡は、炉だけを持つものでI区の住居跡とは異なる。第4グループは、当区の同群内には検出されていない。

堅穴（第5表） 当区検出の堅穴は15基検出されている。1～3・9・10号堅穴は1～2m内外の長方形を呈する。4・7・12号堅穴は1m内外の不整円形を呈する。5・6・13・14号堅穴は2m内外の円形を呈する。8号堅穴は0.7×1.1mの長方形、15号堅穴は4.5×4.0mの不整方形を呈する。

第5表 II区遺構一覧表

遺構番号	規 模 (短辺×長辺m)	床面積 (m ²)	床面標高 (m)	主柱穴	炉	周壁溝	屋内排水溝	屋外排水溝	出土遺物	備 考
1号住居跡	4.3×5.3	22.79	36.8	2	なし	北壁のみ	なし	なし		
2号住居跡	4α×4.6α	18.4α	37.0	4	なし	全周(西と南)	なし	なし		
3号住居跡	3.6α×2.2α	7.92α	36.8	4	なし	全周(西と南)	なし	なし		
4号住居跡	4.6×2.2α	10.12α	36.5	4	なし	全周	なし	なし		
5号住居跡	4.6×1.9α	8.74α	36.5	4	なし	全周	なし	なし		
6号住居跡	2.5α×2.2α	5.5α	36.5	4	なし	なし	なし	なし		
7号住居跡	4.1α×1.5α	6.15α	36.5	4	なし	有	なし	北東スミ		
8号住居跡	4.1α×1.1α	4.51α	36.4	4	なし	全周	なし	なし		
9号住居跡	4.6×4.5	20.7α	36.5	4	中央	全周	なし	なし		
10号住居跡	5.5α×3.9α	21.45α	36.5	4	なし	全周	なし	なし		
11号住居跡	2.3α×0.5α	1.15α	36.5	?	なし	なし	なし	なし		
12号住居跡	4.9α×1.4α	6.86α	36.4	4	なし	南と東	なし	なし		
13号住居跡	4.6×1.9α	8.74α	36.2	4	なし	全周	なし	なし		
14号住居跡	4.6×2.4α	11.04α	36.2	4	西壁	全周	なし	なし		
15号住居跡	5.4×2.6α	14.04α	36.2	4	西壁	なし	なし	なし		
16号住居跡	3.8×4.5	17.1α	36.3	4	なし	全周	なし	なし		
17号住居跡	4.6×4.0α	18.4α	36.1	4	なし	全周	なし	なし		
18号住居跡	4.3×4.4	18.92	36.4	4	なし	全周	なし	なし		
19号住居跡	1.5α×5.0	7.5α	36.4	4	なし	なし	なし	なし		
20号住居跡	2.3α×0.7α	1.61α	35.9	?	なし	なし	なし	なし		
21号住居跡	2.9×3.0	8.7	36.2	2	なし	なし	なし	なし		
22号住居跡	3.5α×Y		36.7	?	なし	有	なし	なし		
23号住居跡	0.8α×1.8α	1.44α	36.7	4	なし	全周	なし	なし		

遺構番号	規 模 (短辺×長辺m)	床面積 (m ²)	床面標高 (m)	主柱穴	炉	周壁溝	屋内排水溝	屋外排水溝	出土遺物	備 考
1号竪穴	1.2×1.5									
2号竪穴	1.9×2.0									
3号竪穴	1.1×1.9									
4号竪穴	1.2×1.2		36.7							
5号竪穴	2.7×6.0α									
6号竪穴	1.7×2.4									
7号竪穴										
8号竪穴	0.7×1.1									
9号竪穴	1.9×2.3									
10号竪穴	1.6×2.4									
11号竪穴	0.9×1.2									
12号竪穴	0.8×0.8									
13号竪穴	1.1×1.7									
14号竪穴	0.8×0.8									
15号竪穴	4.5×4.0								土器留り	
1号集石遺構	0.7×0.9									



第13区 古留京山遺跡II区遺構配置図 (1/200)

4. III区の調査

当区はII区の北 mの地点に位置している。50m×40mの発掘区域内に住居跡8棟、竪穴22基、土塙墓1基を検出した。遺構面の標高は、32.50m～31mの間で南東から北西に向って緩やかに下っている。標高32mの等高線上には、住居跡群が等高線に平行配列されたように占地しており、この住居跡間の空地に竪穴が点在している。

住居跡（第6表） 当区検出の住居跡は弥生時代の住居跡1棟と古墳時代の住居跡7棟である。これらが1群を構成し、標高32mの等高線上に占地されている。

弥生時代の円形住居跡は7号住居跡で、5・6号住居跡に切られている。最高壁高は6cm程度で西側壁は削平により消滅している。住居跡規模は遺存している住居壁間の最大径から直径3.7mのものと思われる。

古墳時代の住居跡は1～6号及び8号住居跡である。これらの住居跡を1区で細分したものと同様の方法で細分すると、第1グループに入るようなものは、2・3・5・8号住居跡である。2号住居跡はII区20号住居跡、3号住居跡はI区8号住居跡にそれぞれ類似している。8号住居跡は周壁溝と西北隅から北に屋外排水溝を付設している。第3グループに入るものは、4・6号住居跡である。いづれの住居跡もI区12号住居跡に類似する。第4グループに入るものは、1号住居跡である。当住居跡は5.9×7.1mの規模を持つ住居跡の後に、6.1×6.8mの規模を持つ住居跡を立てたものである。前者には周壁溝はみられないが、後者には幅30cm程度の周壁溝が巡っており、西南隅から西に延びる屋外排水溝へと続く。住居床面中央からやや南よりに50×80cm程の焼土がみられることから炉跡の存在をうかがわせる。

竪穴（第6表） 当区検出の竪穴は22基検出されている。4・6・8号竪穴では小礫塊と共に土器片が出土する土器留りのようなものである。4号住居跡床面下に遺存している14・15・16号竪穴は土器留りでその西側には土塙墓とみられる竪穴が存する。4号住居跡西壁に切られて遺存している11号竪穴は不定方形を呈するもので短軸方向断面は浅いすり鉢状となっている。

4.まとめ

吉留京田遺跡は、圃場整備に伴う発掘調査のためI区からIII区と部分的な調査ではあったが多数の柱穴群と等高線に平行配列された3群の住居跡群を検出できた。住居跡は構築及び規模の違いにより4グループに細分した。

出土遺物については本報告で述べるが、弥生時代中期から6世紀にかけて多くの土器、石器が出土した。

第6表 III区遺構一覧表

遺構番号	規 模 (短辺×長辺m)	床面積 (m ²)	床面標高 (m)	主柱穴	炉	周壁溝	屋内排水溝	屋外排水溝	出土遺物	備 考
1号住A	5.9×7.1	38.64	32.1	?	?	なし	なし	なし		1号住の建替前のもの
1号住B	6.1×6.8	40.12	32.0	4 中央 やや南より	ほぼ全周	なし	南西スミ			玉類出土 (滑石製白玉)
2号住居跡	2.6×3.1	8.06	32.0	4	なし	なし	なし	なし		
3号住居跡	3.6×3.7	12.95	31.7	4	西壁	全周	なし	南西スミ		
4号住居跡	5.3×5.3	28.09	31.8	4	西壁	全周	なし	なし		
5号住居跡	4.3×2.5α	10.75α	31.7	4	なし	全周	なし	なし		
6号住居跡	5.3×2.9α	15.37α	31.8	4	なし	全周	なし	なし		
7号住居跡	3.7×2.8α	10.36α	31.7	?	なし	なし	なし	なし		PJ形 (弥生では?)
8号住A	3.1×3.5	10.85	31.7	4	なし	東と北壁	なし	北西スミ		
8号住居跡B	2.7×1.5α		31.4	?	なし	北壁	なし	北西スミ		

遺構番号	規 模 (短辺×長辺m)	床面積 (m ²)	床面標高 (m)	主柱穴	炉	周壁溝	屋内排水溝	屋外排水溝	出土遺物	備 考
1号竪穴	1.2×1.7		31.5							
2号竪穴	0.7×1.7		32.2							
3号竪穴	1.3×1.5α		32.2							
4号竪穴	2.3×3.6		31.9							
5号竪穴	1.1×2.0		32.2							
6号竪穴	2.0×2.8		31.8							
7号竪穴	0.8×1.4		32.0							
8号竪穴	2.3×4.3		31.5							
9号竪穴	1.7×2.9		31.5							
10号竪穴	2.2×3.6		31.2							
11号竪穴	2.8×7.0		31.4							
12号のA	1.6×2.3		31.6							
12号のB	0.9×1.5		31.5							
13号竪穴	1.3×2.1		30.8							焼土有り
14号竪穴	1.3×1.9		30.7							
15号竪穴	1.3×1.6		31.0							
16号竪穴	0.5×1.8		31.3							
17号竪穴	1.6×3.0		31.5							
18号竪穴	1.1×2.4		31.8							
19号竪穴	0.7×1.8		31.5							
20号竪穴	1.6×2.0		31.5							
21号竪穴	1.5×1.7		31.4							
1号土塙墓	1.0×2.0		29.9							

第14圖 古留京遺跡III段遺構配置圖 (1 / 200)

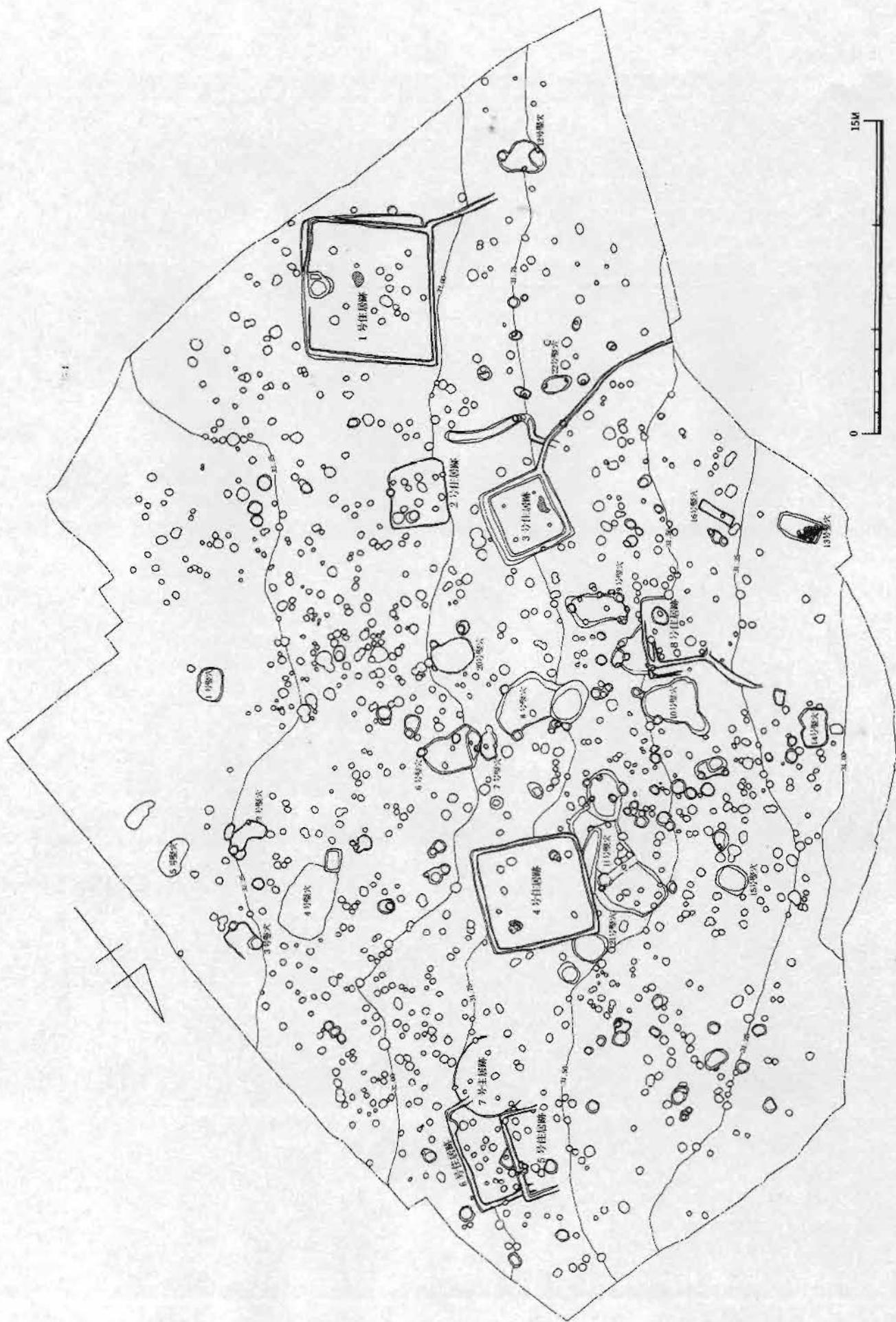


図 版

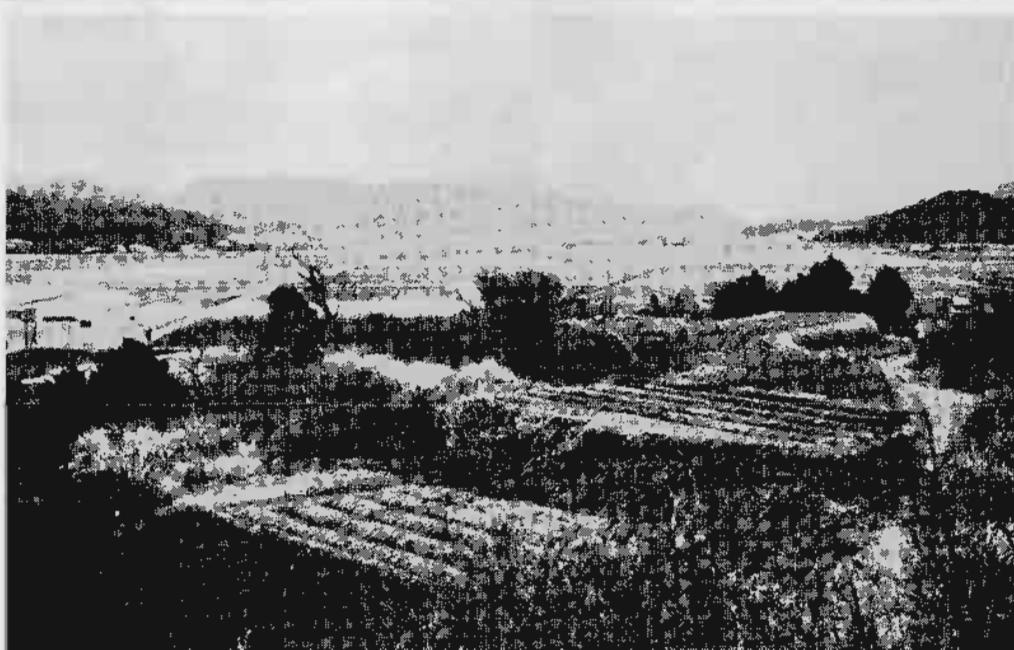
2

大井三倉遺跡

図版 1



1. I区調査前
(東から)



2. I区調査前
(南東から)



3. I区調査後
(南東から)

大井三倉遺跡

図版 2



1. II-A区調査前（南から）



2. II-A区貯藏穴



1. 住居跡群全景



2. 第3号住居跡



3. 第7号住居跡

大井三倉遺跡

図版 4



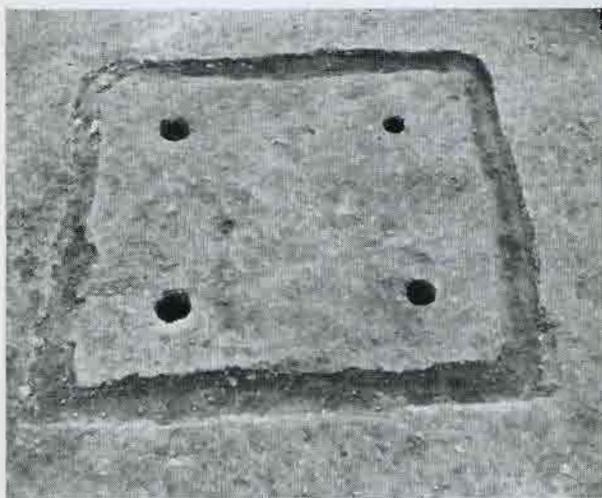
1. II-B区V字溝北半（西から）



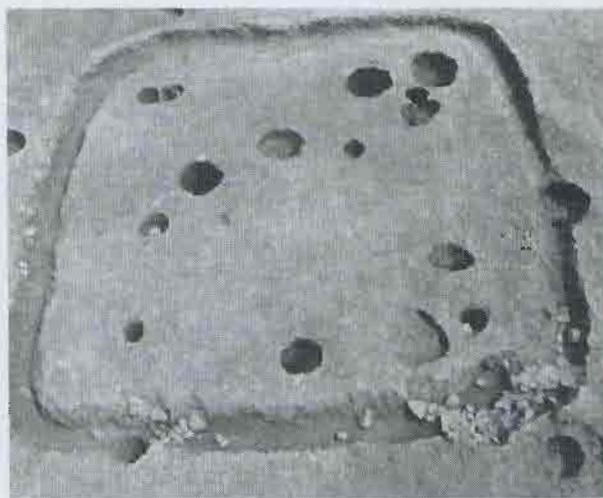
2. II-B区V字溝西半（南から）



1. 遺跡全景（北から）



2. 1号住居跡（東から）



3. 6号住居跡（南から）

吉留京田遺跡

図版 6



1. 1区東側住居群（北から）



2. 1区西側住居群（南から）



1. 4号住居跡（北から）



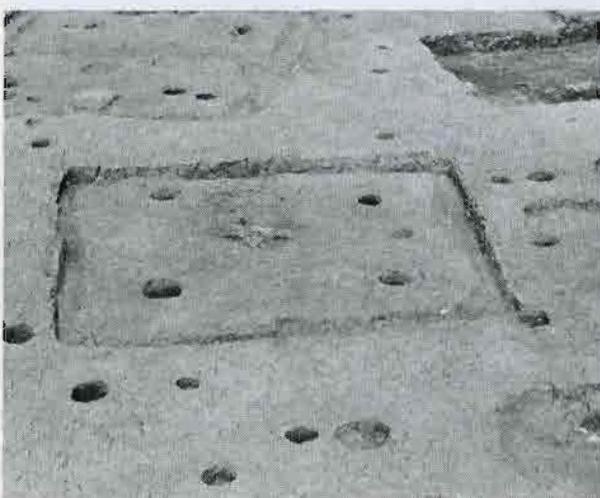
2. 4～7号住居跡（南から）



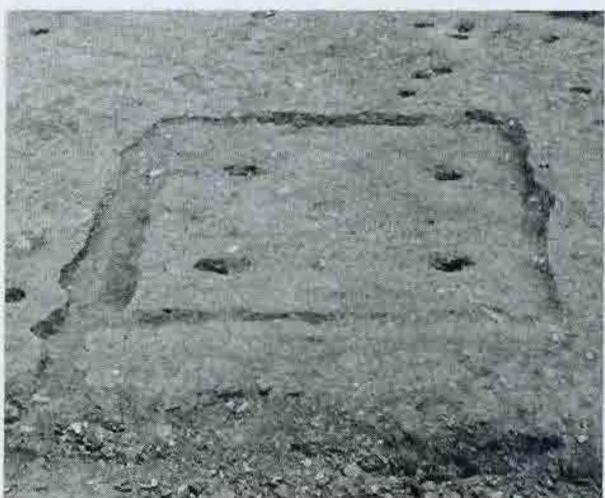
3. 8号住居跡（南から）



4. 10～12号住居跡（西から）



5. 13号住居跡（西から）



6. 17号住居跡（西から）

吉留京田遺跡

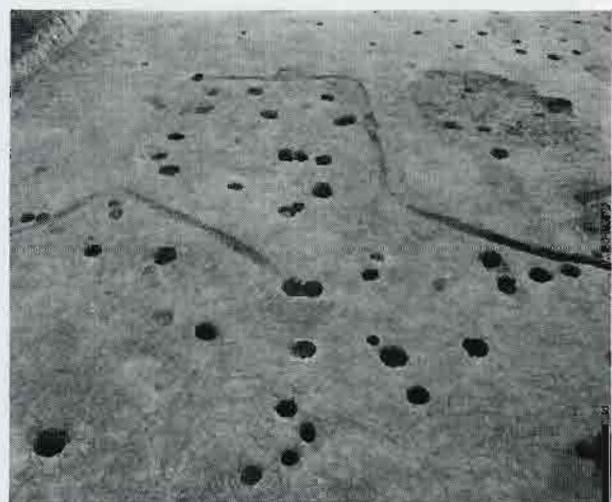
図版 8



1. II区全景（南から）



2. 1号住居跡（南から）



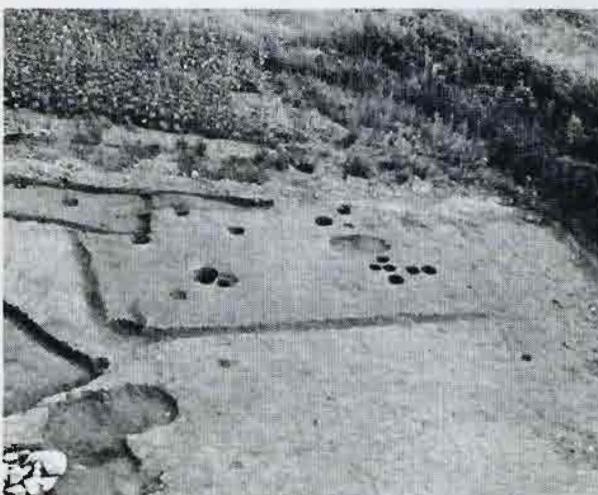
3. 2・3号住居跡（北から）



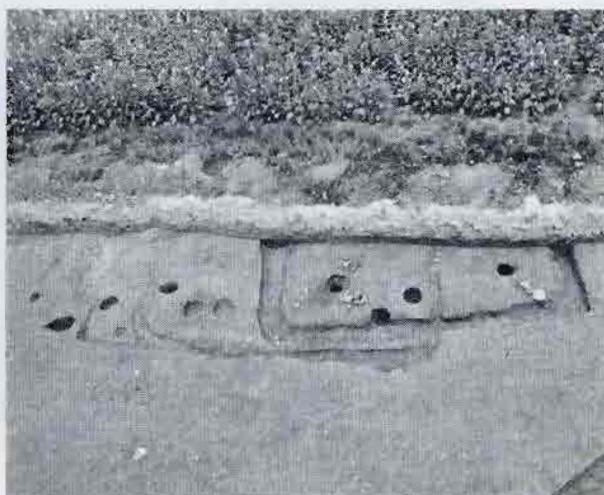
1. 4～6号住居跡（東から）



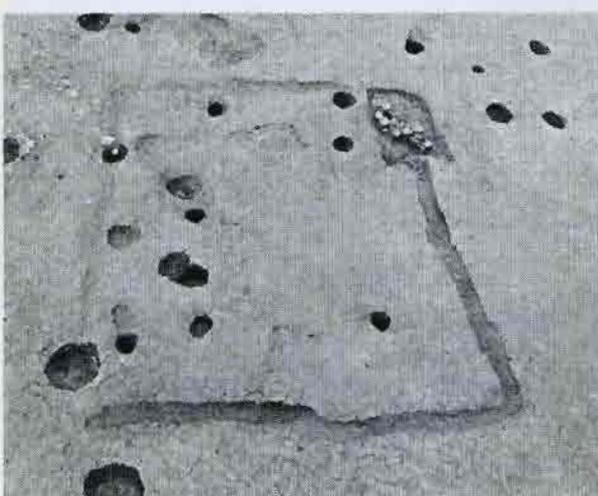
2. 9号住居跡（南から）



3. 10・11号住居跡（南から）



4. 12～15号住居跡（南から）



5. 16号住居跡（東から）



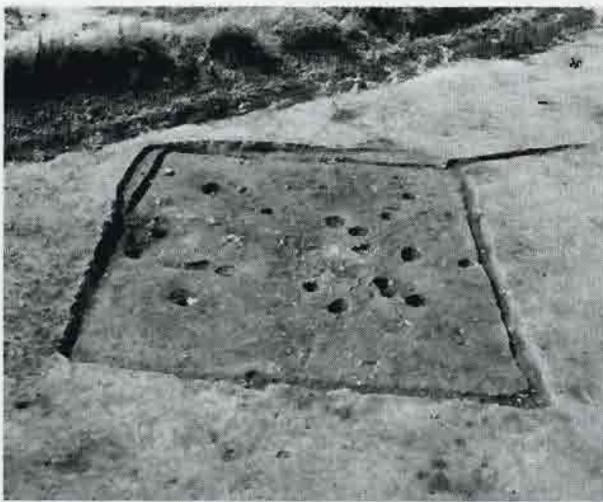
6. 17号住居跡（南から）

吉留京田遺跡

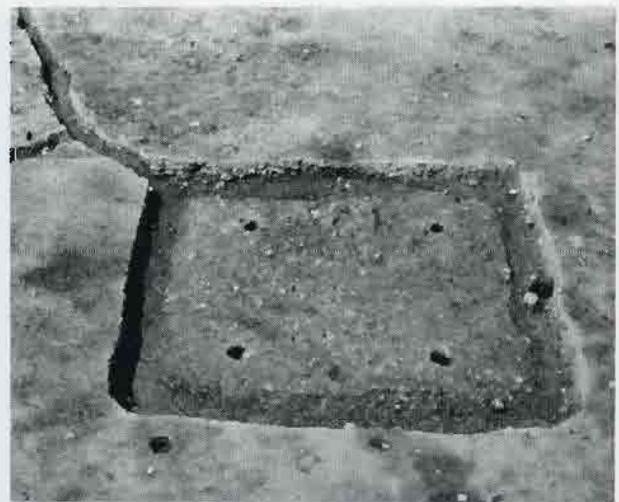
図版10



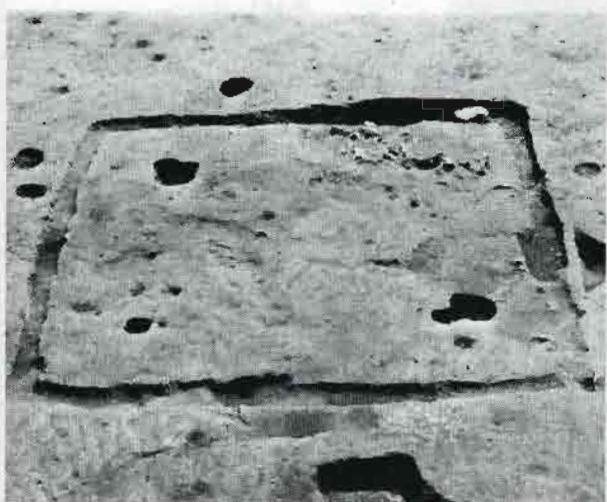
1. III区全景（南から）



2. 1号住居跡（西から）



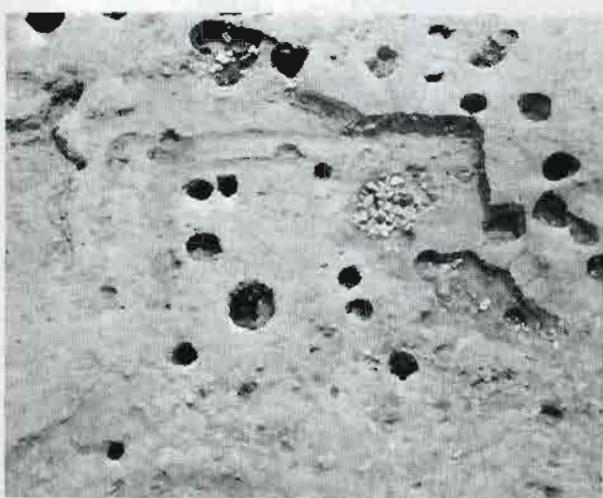
3. 3号住居跡（東から）



1. 4号住居跡（西から）



2. 5～7号住居跡（西から）



3. 8号住居跡（西から）



4. 8号竪穴（南から）



5. 1号住居跡遺物出土状況



6. 1号住居跡 玉出土状況

宗像
埋蔵文化財調査概報

- 1985年度 -

宗像市文化財調査報告書 第10集

1986年3月31日

発行 宗像市教育委員会
福岡県宗像市大字東郷995番地

印刷 釜瀬印刷
福岡県宗像市河東